

第5学年道徳学習指導案

1. 主 題 相手の立場になって 2－(4) 寛容・謙虚
資料名「すれちがい」 (学校図書)

2. 主題設定の理由

(1) 子どもの実態について

本学級の子どもたちは、ほとんどの子どもが自分が失敗したときは素直に認め、謝ることができる。また友達が失敗したときも、許すことが大切だということは理解している。また、日常生活での遊びの中や自然教室、プレイランドなどの行事を通して、相手の気持ちを聞こうとする態度ができつつある。しかし、実際には、相手が失敗すると、その時の自分本位な感情から相手の失敗を責めたりして、相手に厳しい言動をとっている場面も見受けられる。つい我を通そうとしたり、相手の立場を受け入れようとする広い心をもてなかつたりするため、第三者が入らないと、自分たちの力で解決できないことも少なくない。

そこで、様々な人とのかかわり、自分と異なる心情や考え方に会うこの時期に本主題を取り上げ、謙虚な心と広い心を育てることは、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも意義深いものであると考える。

(2) ねらいとする価値について

高学年における内容項目2－(4)は、広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な謙虚な心と広い心をもった子どもを育てようとする内容項目である。

○ 人とかかわりから

広がりや深まりのある人間関係を築くためには、他者に対する開かれた心が特に大切になってくる。その心をもつには、まず自分に謙虚でなければならない。この時期の子どもたちは自我が発達する一方、自分の立場や利害だけで行動をしがちである。しかし、自分の立場や利害だけの自己主張には無理があることに気付くことが必要である。その上で真の自我形成に至る道筋を開いてやるが必要になる。また、自分と異なる見方や立場を尊重して他者理解を深め、受け入れていこうとする広い心が大切になってくると考える。

○ 小中連携から

中学校では、学級や学年、部活動などそれぞれの立場で考え、行動する場面が多くなる。なぜそのような意見や立場をとるのかを相手の立場に立って考える態度を身につけ、異なった意見や立場に対しても広い心で対処できることは、中学校生活での望ましい人間関係を築き、お互いにより一層心を結びつけることにつながると考える。

(3) 資料の活用について

本資料は、よし子とえり子の二人がちょっとしたすれちがいのために仲たがいでしまったその日の出来事を自分本位の立場から日記に記したものである。よし子とえり子はピアノのおけいこに一緒に行く約束をした。しかし、ちょっとしたすれちがいからお互いにつきあいたくないと思ってしまうという内容である。本主題の指導にあたっては、えり子とよし子がどんな気持ちか考えることでそれぞれの気持ちに共感させた後、二人にこのあとどうなってほしいかを話し合わせる。その中でどちらにも足りなかった気持ちがあったことに気付かせていきたい。最後に、自分の経験を振り返らせながら、相手のことを思いやったり相手の立場になって考えたりすることが大切であるという価値に迫っていきたい。

(4) 人とかかわりをつなぐ総合単元 構成図Ⅰ P.98参照のこと

3. ねらい

- 物事を自分本位な見方で捉えてしまいがちであることに気付き、広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見や考えも大切にしようとする気持ちを育てる。

4. 準備

「よし子」と「えり子」の顔の絵，相田みつをの詩，
「よし子」と「えり子」の行動の流れカード，「すれちがい」資料プリント，学習プリント

5. 展開

段階	学習活動と内容	指導上の留意点
導入	1. 友達ともめあった経験を発表し、めあてについて話し合う。 ○ 自分の経験を振り返り、どんな気持ちだったか考える。 めあて □ 広い心について考えよう。	○ 普段の生活の中で、よくある場面であることと意識させ、その時の気持ちを聞き合い、本時学習の方向付けを図る。
展開 前段	2. 資料「すれちがい」を読んで話し合う。 (1) よし子やえり子の心情について考える。 ○ えり子に知らん顔をしたよし子は、どんな気持ちだったか考える。 ・自分からさそっておいてひどい。 ・電話くらいくれてもいいのに。 ・約束をやぶるなんてひどい。 ○ 知らん顔をしているよし子を見て、えり子はどんな気持ちになったか考える。 ・遅れてごめん。 ・私の理由も聞いてほしい。 ・勝手に二時に待ち合わせにしてひどい。 (2) この後二人はどうなっていくのか、二人に足りなかったところは、何か考える。 ・よし子さんは、勝手に時間を決めて待っていたのだからそのことを謝り、相手の話を聞いてあげる。 ・お互いが謝り合うといい。 ・自分のことだけでなく、相手のことも考えてあげる気持ち。 ・相手の立場になって考える気持ち。	○ お互いの立場になって考えやすくするために、子どもに配布する資料は、色の違う用紙に印刷する。また、その都度発問していくようにする。 ○ 時間にそってそれぞれの行動を把握できるように、立場に分けて板書したり、関連をもたせたりして工夫する。 ○ よし子の気持ちを考え、約束を破られ、待たされたよし子の腹立たしい気持ちに共感できるように、気持ちの変化を書いた短冊を用意する。 ○ えり子の気持ちを考え、事情があったにもかかわらず、理由も聞いてもらえず理解してもらえないえり子の悔しい気持ちに共感できるようにする。また、えり子の気持ちを考え、よし子の自分本位な態度を裏付けていく。
展開 後段	3. 自分自身の経験を振り返り、どのように行動すればよかったか考える。	○ より好ましい人間関係を築き保っていくためにはどうすることが一番良いことなのか考えることにより、自分たちの日常生活につなげていくようにする。
終末	4. 「心のノート」 p 48～49の相田みつをの詩を読み、今日の学習を振り返っての感想を書く。 ○ 「やわらかいところ」とは、どんな心か考える。	○ 相手の立場で気持ちを考えられる温かい思いをもつとともに相手の立場や気持ちを思いやることが好ましい人間関係を築いていくことにつながっていくことを伝える。